

令和8年第1回横浜市斎場指定管理者選定評価委員会 議事録	
日 時	令和8年4月28日（火）14時00分～17時18分
開催場所	横浜市役所18階 なみき4会議室
出席者 (五十音順)	大杉委員、川端委員、小谷委員（委員長）、小林委員（委員長職務代理者）、三宅委員、矢部委員、事務局（9名）
欠席者	0人
開催形態	非公開
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 横浜市斎場指定管理者選定評価委員会委員長の選任・委員長職務代理者の指名について 2. 議事の公開等について 3. 応募状況等について <ol style="list-style-type: none"> ア 応募状況について イ 欠格事項について ウ 財務諸表等の確認結果 4. 審査の流れについて 5. 面接審査等 6. 指定管理候補者の選定について
決定事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員長は小谷委員、委員長職務代理者は小林委員に決定。 2 第2回委員会は「個別、具体的な審議」となることから非公開とする。 3 団体Bを指定候補者とし、団体Aを次点候補者とする。
議 事	<p>1 横浜市斎場指定管理者選定評価委員会委員長の選任・委員長職務代理者の指名について</p> <p>(1) 委員6名中6名が出席のため、横浜市斎場指定管理者選定評価委員会運営要綱第7条第3項の規定に基づき、本委員会は有効に成立。</p> <p>(2) 横浜市斎場指定管理者選定評価委員会運営要綱第6条に基づき、委員の互選により小谷委員が委員長、小林委員が委員長職務代理者に就任。</p> <p>2 議事の公開等について</p> <p>・令和7年11月27日開催の令和7年度第1回委員会において、令和8年4月に開催される次回委員会は「個別、具体的な審議」となることから非公開で行う旨が決定されているため、今回は非公開で行う。</p> <p>3 応募状況等について【資料1】</p> <p>ア 応募状況について、イ 欠格事項について</p> <p>(事務局) 応募状況等についてのうち、ア 応募状況について、イ 欠格事項について、資料1に基づき説明。</p> <p>(各委員) 質問なし。</p> <p>ウ 財務諸表等の確認結果</p> <p>(大杉委員)</p> <p>・団体A、団体Bともに、指定管理期間において何らかの財務的な問題が発生し得る状況はないと考えています。</p>

- ・火葬業務の湯茶業務に関しては団体A、団体Bともに委託費に含めていることを確認していますが、売店・駐車場業務に関して一部読み取れなかった部分があったので、ヒアリングの中で確認をしたいと思います。
- ・団体Aに関しては、代表企業は営業キャッシュフローがマイナスになっていますが、構成企業は現金・預金 300 億円以上の保有、流動比率も 600%を超えており、財務的には全く問題ないと考えます。
- ・団体Bに関しては、代表企業は特段問題ありませんが、構成企業の一部で、会計基準に準拠した計上ではないと考えられる「準備金」という勘定科目が計上されています。しかしながら「財務状況は健全か」という問いに対しては概ね問題ないと考えています。
- ・今日の報告は監査ではなく、あくまで提出書類が正しいという前提のもと、提出資料のみに基づき、さらに私の推測も含んだ情報提供であることに留意いただきたい。その他気になる点はこの後の質疑で確認します。

(小谷委員長) 大杉委員の報告について質問はありますか。

(各委員) 質問なし。

(小谷委員長) よろしいですか。それでは、後ほどの採点の際に、評価項目1の(1)については大杉委員の説明、評価項目6の(1)(2)については事務局の報告を踏まえて採点をお願いします。また、必要に応じてこの後の団体への質疑の際に直接確認してください。

4 審査の流れについて【資料2】

(事務局) 審査の流れについて、資料2に基づき説明。

(小谷委員長) 何か質問がありますか。

(各委員) 意見なし。

5 面接審査等【資料2、資料3】

応募団体入室後に事務局から注意事項を説明し、応募団体A・Bそれぞれが提案内容について15分間のプレゼンテーションをした後に、委員から応募団体に対して質疑応答を行い、その後、委員間で意見交換をしたうえで最終評価を行った。

【団体Aに対する質疑応答】

(委員) メインの火葬業務以外に、付随業務として湯茶業務、駐車場業務、売店業務がありますが、駐車場業務と売店業務はどのように計画されていますか。

(団体A) 一般的に火葬場の指定管理者の人員費はそれぞれの業務に振り分けて委託費扱いにすることが多いので、駐車場業務は機器保守の委託料に含まれています。湯茶業務、清掃業務、売店業務はその他の湯茶接客業務に含まれています。売店業務に関しては、湯茶接客業務の委託先に委託する予定ですが、委託先は横浜市の仕様で障害者団体に定められています。

(委員) 御社の通常時の火葬タイムスケジュールを見ると、1号炉から15号炉の15炉を使って、9時から15時まで全ての時間を1時間7件で回して、16号炉は予備炉という形で、さらに繁忙期は15時30分枠を使うということですが、この運営に関するノウハウはあるのですか。普通は9時8件、10時7件というやり方で使うと15をうまく使いきって最大56件になるようで

すが。

(団体A) 私たちは8件、7件という組み合わせでやっている斎場も、毎時間同じ件数でやっている斎場もありまして、斎場によってやり方は変わります。今回は一旦7件、7件という組み合わせで提示していますが、協議によって我々が考える7件、7件よりも8件、7件の組み合わせのほうが良いとなれば、それには十分対応できる人員数は確保しています。

(委員) 新規の方は3か月の研修期間があつて、内部試験に合格して初めて現場に出られるということですが、オープン前の3か月から研修をするのか、それとも、研修期間はオープン前の1か月で、オープン後2か月はいわゆる遊軍みたいな扱いで運営するのですか。

(団体A) 3か月の研修でできることは受入れ、収骨という基礎的なレベルで、戦力になるにはここからさらに時間がかかると考えています。我々としては3か月ぐらいあればスムーズにできると考えていますが、まだ建設状況等読み切れないところもあるので、運営前に3か月確保するかどうかについては、施設に入れるのは1か月前かもしれない、もしくは10日前かもしれない等々ありまして、おそらく、供用開始日には現地雇用した人員は戦力にならないであろうと想定しています。

(委員) 応募理由にある「日本における斎場運営のフラッグシップ」とはどういうことか、もう少し詳しく具体的に教えてください。

(団体A) 3点あつて、1点目として、横浜市内の複数の火葬場の大手火葬炉メーカーと我々が共存する形になりますと、横浜市としてはそれぞれからノウハウを吸収、集約できていくというメリットがありますし、何かあつた際に、全部同じ企業がやっていると破綻してしまう危険があるけれども、それぞれで補うことが可能になるようなBCPをつくっていきと思っています。2つ目としては、火葬需要の増加という問題がある中で、市内にある複数の火葬場で切磋琢磨していくことで、横浜市は問題なくできていることも示していけます。3点目は、全国に誇れるサービスレベルにしていきたいと考えていまして、横浜市が久保山斎場、北部斎場等々となつていく中で、全体的に底上げをしていくというのをイメージして、「フラッグシップ」という言葉を使わせていただきました。

(委員) 「新たな価値の提供」という言葉が使われていますが、斎場は一般的には提供するサービスが決まっていると思われる事業ですが、皆様が考えられる「新たな価値」とはどういうことか、少し補足してください。

(団体A) 具体的にお示しできる「新たな価値」に関しては、提案書に全て記載していますが、5年間で新たな価値を提供していきたいという思いを込めての表現になります。我々は平成18年から火葬場事業をやらせていただいています。当時、停滞していたところが見受けられた時期でしたので、我々としては、風穴を開けていきたい、全国の火葬場を見直す機会にしていきたいという思いを持って、接遇の一から十まで新しく作り上げてきましたので、おそらく、いろんな事業者はもっとサービス水準を上げていかなければいけないと思われたと考えています。

(委員) 平成18年当時、斎場において提供すべきサービスの中で最も停滞していたのは何ですか。

(団体A) 寄り添う心だと思います。うちの会社の創立メンバーは、火葬場に行ったときに悲しい思いをしたことがきっかけで事業を始めています。もう一つは、当時まだ浸透していなかった女性職員を雇用したことは我々がもたらした大きな変化ではないかと思っています。

女性職員を増やしていくことによって、「声がかけやすかった」「雰囲気がやわらかくなった」「火葬場ってもうちょっとかたくて怖いイメージがあった」というアンケート結果をいただいています。

(委員) 今、女性職員はどのような業務につかれていますか。

(団体A) 全てに女性職員がついています。火葬炉の運転業務、お別れ、収骨、お棺を運ぶ台車などの全てに女性を配置しています。

(委員) 計画にインカムを活用して、遊軍的配置をして、スムーズにとありますが、つまり、1人の職員にマルチタスクを求めていくことになると思いますが、1人で複数の業務に対応できるようになるまでにはそれ相応な時間がかかりますが、どうやって実現していくのでしょうか。

(団体A) 遊軍はベテランがなることになります。3か月の研修では、とりあえず受入れ、お別れ、収骨などの業務につける基礎研修期間として設定していますが、どれぐらいでできるようになるかは個人差があります。状況を見ながら動けるようになっていくには、半年、あるいは1年かかる人もいますし、火葬炉の操作は、さらに研修をして覚えていくこととなります。

(委員) スタートアップのときには新しく雇用した人は配置できないと言っていましたが、本社にはマルチタスクな余剰人員を抱えているということですか。

(団体A) 東部斎場に配置予定の27名の中には、私も本社で総務や経理についている人員も入っていますし、ほかの受託物件からの転勤も募ったりしますが、普段、斎場の現場業務で一人人工として働いていない本部人員だけで27人ぐらいを確保できます。

(委員) 斎場長が1名いて、その下に事務長がいて、斎場長が用があるときには事務長が代わりをやるという説明がありましたが、副斎場長を置く予定はないのでしょうか。

(事務局) 事務長が副責任者を兼ねる形を想定していますので、名称的に「副」という言葉は使わなかったのですが、斎場長がいて、副斎場長として事務長という設定にしています。

(委員) 予算書で自主事業については毎年赤字になっているのですが、これはどう補填をされる予定ですか。

(団体A) 火葬場の中で収入を得る自主事業というのはなかなか難しく、持ち出しでやるのを自主事業として解釈してやらせていただきます。

【団体Bに対する質疑応答】

(委員) 配置される警備員6名は直接雇用ですか。これらの方は火葬業務には従事せず、警備業務だけを行うのですか。

(団体B) 警備員6名は弊社雇用の職員で、夜勤もありますので、6名で回す形になります。火葬業務に関してはご案内程度で、夜間の告別式などの案内をします。

(委員) 自主事業については、自動販売機手数料を原資として、講座やいろいろなサービスに努めますということですが、そこでは収益を持たずに還元していきたいということでしょうか。

(団体B) そうです。今大体100万円を想定していますが、職業体験学習や、葬送に関わるような生涯活動の講座を開催していきたいと思います。

(委員) 通常期と繁忙期のタイムスケジュールを見ますと、一番人気の高いお昼前後を充実さ

せて、横浜市の求めがあったら、40枠を53枠にするのは簡単にできるということでしょうか。

(団体B) 年度目標は死亡統計に基づいて算出していますが、11,550件から5年目13,840件という推測をしていて、空いている枠があれば、横浜市と協議をして、提案の枠をさらに増加させて対応する運営をしていきたいと考えています。

(委員) 地域連携についてお尋ねしますが、斎場近辺は人が住んでいないので、地域連携といっても結構住居が離れているので、斎場職員がわざわざ生麦まで行くのは大変ですから、あまり無理されないほうがいいと思います。

(団体B) 我々はこれまで地域ケアプラザに出張して、フラワーアレンジメント教室や終活講座等のアウトリーチ活動や、地域のイベントの運営のフォローや広報などを実施していますが、東部斎場の1年目はこちらから生麦地域ケアプラザや地域に出向いて、「蛇も蚊も祭り」や旧東海道のお祭りのお手伝い、あるいは地域のイベントのブースにも出展させていただければと考えています。また、地域の方に東部斎場にお越しただいて、現地の見学会や講習に参加していただきたいと考えていますし、中学校とも職業体験やいろいろな面で連携をとっていききたいと思っています。

(委員) 需要予測から定常時40枠を想定されていますが、体制的にもうちょっと高い水準の定常時運営は実現可能ですか。

(団体B) できます。4月からの枠の設定は大体2月に横浜市様に提出をしています。いきなり増やすということが横浜市のほうで可能であれば、対応可能です。

(委員) ちゃんと分解して収入計画を作っているところは好感が持てますが、この先、燃料とか電気代などの物価変動が起きたときに、収入計画の中では単価が設定されていますが、交渉して安全に回せるようにしたいとか、今の段階で何か想定していますか。

(団体B) 昨年、横浜市の制度によって物価スライドが確実にいただけるようになっていきましたので、それを適用させていただきます。また、日頃の設備の運転の方法によっては電気代がだいぶ節約できますし、無駄に動いているエスカレーターやガスの消し忘れなどを徹底して改善しながらコントロールしていきたいと考えています。

(委員) 火葬炉は前の火葬枠計画と連動した売上になっていると思いますが、それ以外の収入計画は、手堅く見ているのか、中庸で見ているのか、頑張ってる感じと見ているのか、どのように読めばいいですか。

(団体B) 頑張らせていただきました。

(委員) 災害時に本社から移動式とコンテナ型の火葬炉が出動するという話でしたが、呼び寄せるとしたら最大限どのぐらいの数が来てもらえるのか。また、それは構成団体だから優先的に回してもらえるのか、それとも火葬炉が設置されている火葬場であればほかのところでも出動しているものなのかを教えてください。

(団体B) 構成企業Aからご回答をしますと、移動できる火葬場には火葬炉が2基、トレーラーの中に入っている火葬炉は1基の合計3基あります。本社で災害に備えた施設や設備を研究開発していますので、今後はもう少し基数や施設の数を増やすことができるかもしれません。これらは基本的に無償で貸与させていただきたいと考えていますが、災害は起こってみたいと分かりませんが、局所的な大規模か、被災状況、死亡者数、現場にある火葬場の稼働状況を総合的に判断して提案をさせていただくこととなりますが、災害時は会社としても全

力で対応していきたいと思っています。

(委員) 今までにその2つが出動した実績はあるのですか。

(団体B) こちらは3年前から稼働し始めたのですが、能登半島の地震のときは、土砂災害によって道路が使えなくなってしまったり、電気、ガス、水道が壊滅的な状態だったので、行くことはできませんでしたが、近隣の道路は無事でしたので、翌日から段階的に近隣、近県に出動して、火葬炉整備の確認や、部分的な修繕、保守点検といった対応をとらせていただきました。

(委員) 東部斎場は市営バスがほとんど通らないとても交通が不便なところですから、障害者を雇い入れたときに、その人たちの通勤をどうするのか心配しているのですが。

(団体B) 横浜SSJとの打ち合わせの中で、近くに事業所を構えるので、その心配はないという話が出ていました。

(委員) 地域的に外国人が多く住んでいるエリアかと思います。ホームページでの多言語対応は拝見しましたが、それ以外に外国人対応として今考えていることがあれば教えてください。

(団体B) 基本的に受付対応は葬儀社とやるので、外国の方と直接お話しする機会はあまりありませんが、利用の途中でお声がけいただくようなことがあれば、翻訳機を使って会話する形になります。リーフレット等は4か国語のリーフレットを用意していますが、日本語リーフレットは2,000部を刷って約1,000部、各外国語は250部に対して10部程度利用されています。葬祭業者を頼ってこられているので、我々は直接お話しする機会はあまりないかと思うのですが、緊急時は直接話をしなければいけないので、翻訳機の備えはしています。

(委員) 新しく雇い入れる方の比率はどのくらいで、4月の段階では戦力として一人前になっているのでしょうか。

(団体B) 火葬業務に関しては、現時点では新規職員は2割、3割ぐらいを想定しています。弊社は全国的に火葬業務の委託や指定管理をやっていますので、トレーニングのカリキュラムや資料がありますし、3月中にオープン予定とお聞きしていますので、その数か月以上前からしっかりとトレーニングをして、供用開始時は一人前に対応できるようにして臨みたいと思っています。

【全体意見交換】

(小谷委員長) 「最終評価」欄にご記入いただく前に、事業計画書や各団体からの説明の内容を踏まえて、委員同士で採点結果について意見交換をしたいと思いますので、よろしく願います。

【主な意見】

- ・団体Bはオープン前にスタッフを育成していくと言っているのは、周辺に関連の施設があるからで、そこの部分はプラス要素となった。火葬卒の運用の仕方として、火葬には90分ぐらいかかるので、団体Aは15時30分は会葬者の来場を伴わない案件を中心という話だったが、予備炉1炉を使って15炉をどううまく回していくかという点では、無理がないのは団体Bのほうなので、そこは経験の違いがあるのかもしれないと感じた。
- ・団体A、団体Bともに、この団体にお任せするのは難しそうだというのはなかった。そのうえで、団体Bは指定管理料は満額で出しているのに対して、団体Aは少しディスカウントを

しての提案となっているという点が違っていた。

- ・BCPの面では、横浜市全体の指定管理のリスクヘッジを考えたら、多様性を意識するという考え方もあると思った。
- ・提案書を読んだだけでは甲乙つけがたいが、管理経費の収入計画を安全に出している点は安心感につながるので、そこで差がついた。
- ・新規参入の必要性がどの程度あるかの判断は難しいが、団体Aから新規参入の強み、炉メーカーでない強みを具体的に聞けたらよかったと思うが、抽象的、理念的な感じだったので、委員から炉メーカーに匹敵するノウハウを引き出す聞き方をすればよかったかもしれない。
- ・自主事業について、持ち出しでもいいと言っていたり、頑張っただけで計画しましたと言っているのは気になったが、横浜市設定の委託料があれば、評価委員としては評価がつけやすい。
- ・団体A、団体Bとも施設に関しては一緒なので、設備をどうするかという体制についても少し聞けばよかったという反省がある。

6 指定候補者の選定について【資料4】

(小谷委員長) 事務局の集計が終わりましたので、議事6「指定候補者の選定について」に移りたいと思います。皆様のお手元に資料3の集計表をお配りしました。説明は事務局からお願いいたします。

(事務局) 指定候補者の選定について、資料3に基づき説明。

(小谷委員長) ただいま事務局から最終評価の集計結果について、指定候補者は団体B、次点候補者は団体Aとの説明がございましたが、よろしいでしょうか。

(委員一同) 異議なし。

(小谷委員長) ありがとうございます。次に、審査結果の報告書の作成にあたって、今回の面接審査等を踏まえた意見交換を行いたいと思います。横浜市斎場指定管理者選定評価委員会運営要綱の第10条では、「委員会は選定、評価の決定等を行ったときは、速やかに当該結果を市長に報告する」旨が規定されています。この市長への報告書については、これからいただく各委員の意見を基に事務局で案をまとめますが、最終的な文言については、委員長の私に一任いただきたいと思います。皆様、よろしいでしょうか。

(委員一同) 異議なし。

(小谷委員長) それでは、審査結果報告書に記載する指定候補者について、どの点が優れていたのか、あるいは、指定候補者に対する意見、要望、期待することなどについて、お一人ずつご意見をいただきたいと思います。

(委員) 主に財務状況のところに関して意見を述べさせていただければと思います。財務状況は健全かという問いに対して、不健全であるという団体、または代表企業、構成企業はなかったと考えております。団体Bの構成企業で一部、計上の不明瞭なものがありましたが、その他財務的に指摘をすべき事項はなかったと考えております。

(委員) 主に地域との連携ということで見させていただきました。ページ数全体で見れば、経費勘定とかとても少なかったのですが、どちらかといえば団体Bのほうが丁寧な対応をされているということで、そこは点数に差をつけました。

(委員) 新たな業者の参入のメリットと、既存の業者が炉メーカーであるメリットとでかなり悩んだのですが、団体Aから新規のメリットのアピールが具体的に聞かれなかったけれど

も、団体Bからはこれまでの運用を踏まえた着実な計画が聞かれましたので、安心感は団体Bのほうが強かったです。これまで参入されている業者ということなので、今後も横浜市の斎場運営のためにそのメリットを活かして行ってほしいと思っています。

(委員) 相対的には1割も差がないので近しかったと思うのですが、プレゼンの中身が、施設というよりは、設備の維持管理とメンテナンスのところでの信頼感が大きかったのと、もう一つは、収支計画に対して綿密に、真面目に立てていたところ、この2つが大きい差があったと思います。今回の項目でいくと、施設の運営と、設備の維持管理と管理経費という大項目があったのですが、今後に向けて、道路とかロータリーのように、斎場を空間としてどう維持するのかと、その空間の中で機能を実現するための設備をどう維持、運転するのか、この2つを組み合わせでどう経営するのかと分けたほうが、次点になったAに対して、空間としてどう運営するか、設備をどうメンテナンスするかと問いかければ、違う答えが返ってきたかもしれないので、評価項目をもう少しブラッシュアップできる余地があるかなと、改めて思いました。

(委員) 資料を拝見する中で、なかなか甲乙つけがたい部分があって、点数をつけるのに非常に迷う部分がありました。今回は、1人がA、残りの5人がBだったのでBが選ばれたと思うのですが、結果が近接してきますと、最高点と最低点を除いてあとは点数を合計して優劣を決めるというのは、1人の委員の配点の大きさによっては影響が出る可能性もあるので、果たしてうまく機能するかどうかと評価表を見て感じました。そうは言っても、今の形以外でいい選択肢はないのかなと思うのですが。そういう意味では、両者とも研さんを積んで実力を上げてきたので、今後優劣をつけるのが非常に難しくなってきますと、委員としては相手のいいところをどう引き出すかというところに傾注していかなければいけないと思いました。

(委員) Bが選ばれた理由は、BCPのメリットを活かす安心感で採択されたという一言に尽きると思っています。細かい項目ではそんなに差がないので、メリットを活かしていかに安心・安全な施設運営をしていくかというところに期待したいと思います。地域との連携として、「開かれた火葬場」という言い方は変ですが、嫌な施設が地域にやってきたということではなくて、これから新しい葬送文化をつくってくれるような火葬場がやってきたという、地域の方の歓迎ムードを無にしない施設運営をしていただきたいというのが私の要望です。

(小谷委員長) その他ご意見ございますでしょうか。よろしいですか。

意見も出尽くしたようなので、このあたりで意見交換を終了したいと思います。

その他

(1) 指定管理者決定、供用開始までの主な予定

(小谷委員長) 議題の4「その他」として、これからの予定について事務局から説明をお願いします。

(事務局) 指定管理者決定、供用開始までの主な予定について、事務局から説明。

(小谷委員長) 事務局から説明が終わりましたが、何かご意見、ご要望がございましたらお願いします。

(各委員) 意見なし。

(小谷委員長) それでは、これで本日の委員会を終了いたします。長時間お疲れさまでした。

	ありがとうございました。
資 料	資料1 横浜市東部斎場 第1期指定管理者応募状況 資料2 横浜市東部斎場 第1期指定管理者 審査の流れについて 資料3 横浜市東部斎場 第1期指定管理応募者 評価書（2部） 資料4 横浜市東部斎場 第1期指定管理応募者 評価表